

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101169		
法人名	日本海観光株式会社		
事業所名	グループホーム敬愛苑		
所在地	島根県松江市寺町198-57		
自己評価作成日	平成21年11月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.fukushi-shimane.or.jp/html/kaigojyouhou/index.html>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1YNT第10ビル207		
訪問調査日	平成21年12月	日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、開設当初から変えることなく、地域の中で暮らし続ける地域密着型サービスとして定着している。新入職員へは第1に説明し、日々のケアから地域交流へ職員が意識して取り組めるように働きかけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や、商店へ利用者と共に買物に出掛けるなど、近隣者と触れ合う機会は多い。商店会に加入している。会議室等は近隣4町の会議等に開放している。防災時地域住民の一時避難場所にもなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は、事業所での実践内容を踏まえ地域の研修等に参加したり、他ホームと交流し、認知症ケアの啓発に努めている。運営推進会議等により認知症を理解していただけるような企画を練っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの状況・行事の報告や事故の内容その後の取組み等ありのままのホームをわかりやすく伝えられるよう資料等にも工夫している。参加者からの質疑・意見・要望等も多く活気のある会議となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは連絡を密に取り、事業所としての考え方や実態を伝え積極的に連携を図っている。また、会議の場だけではなく利用者のニーズに応じた相談、問題の解決へ積極的に対応して頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者はどんなことが合っても拘束を行わないという姿勢で、利用者の状態を細かくチェックし、シフトによる申し送りを徹底し職員による見守りを強化し自由な暮らしを支援できるような体制を取っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で、眼の見える身体的虐待や暴言・無視などの心理的虐待以上に、職員が気付いていない不適切な声かけによる無意識な心理的虐待に重視し、その都度対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業の利用者がおられ、担当者との連携の中で学んでいる。成年後見についても利用を検討している利用者がおられる。その都度、管理者が中心となり職員が学べる機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、退居を含めた事業所のケアに対する考え方や取組み、対応可能な範囲について説明し同意を得ている。料金に関わる場合は特に、丁寧に説明し理解・納得して頂いたと確信した上で手続きをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の米死時には、声を掛け利用者の状況を説明したり家族からの要望を切り出しやすい雰囲気作りをし、意見や思いを伝えて頂きやすいように努めている。出された意見は、ミーティング等で話し合い反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット毎に月に1回以上、会議し全職員が意見を言えるようにしている。また、日頃から個別にコミュニケーションをとったり、問いかけにより聞き出ししたりしているが、苦情や不満は言い難く把握し切れていない。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場に入り職員個々の努力や実績を把握している。指定基準を上回った配置と仮眠時間の取得等配慮している。職員の業務や悩み、人間関係はやりがいや向上心にも繋がるため把握するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を収集し、職員の区別無く経験年数を踏まえた職員の段階に応じて研修が受講できるようにしている。研修報告書を提出してもらい会議の場で発表してもらい即実践に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、市内の同業者と交流する場を定期的に作り交流する機会を設けているが当職員の参加者はまだ無い。他GHへの見学を希望する職員は見学させてもらいホームの業務に反映されるようにしてる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用開始までには、必ず直接本人に会い面談をしアセスメントしている。本人に向き合い思いや要望に応えられるよう、また、職員が本人を受入れやすいような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や経緯については傾聴し聞くことから始まる。その上で、これからのサービスの利用に向けて家族と共に相談しながら、本人を中心としたケアへ結び付けられるよう協力体制をとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の実情により、その時点で必要なサービスは何かを見極め、場合によっては他事業所を紹介することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	和やかな生活が出来るように場面づくりや声がけをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子を、毎月お便りで報告し情報の共有に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎週日曜日に教会へ行かれたり、家へ帰られたりする利用者があり、生活習慣を尊重している。また、他施設入居中の奥様がヘルパーさんと共に毎週面会に来られる方もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで楽しく過ごす時間や気の合うもの同士で過ごせる場面作りをするよう心がけている。利用者同士の支え合いを引き出すために、座席には気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などの場合、なじみの職員が機会を作って見舞いに行ったり、移り住む先の関係者とも情報交換を行なっている。また、家族からの相談にものっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声かけをしたり言葉が理解できない方には、ジェスチャーなども交えて把握に努めている。言葉や表情などからそれとなく確認するようにしている。家族や関係者同士の情報交換も蜜にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居されるまでに出来る限りの情報収集をし、入居されてからの生活に不安を覚えることの無いように努めている。特に家族からは細かな事柄も伝えてもらいながら本人の訴えも重視している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のしたいこと、できることを可能な限り優先した援助を行い、生活・心理面などその人全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思い、意見を聞き、職員全員で意見交換をしてケアプランを作成している。日々、カンファレンスをしながら見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意して、身体的状況や日々の様子、本人の言葉、エピソード等を記録している。全ての職員がいつでも確認できるようにしており、情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族には、毎月苑便りを送付してこちらの様子を知ってもらうようにしている。通院等の送迎は本人や家族の状況に応じて柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に、市職員・中央包括支援センター職員・民生委員・町内会長・公民館長・保育園所長等に参加して頂き、周辺情報や支援に関する情報交換やご意見を頂きながら協力関係を築くようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も主治医の変更を勧めたりせず、本人の今までの掛かり付け医や希望の病院の受診及び往診を受けて頂いている。必要に応じて付き添いや家族と同行し、普段の様子や変化を伝えるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行なえるようにしている。体調や些細な表情の変化を見逃さないよう早期発見に取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供している。また、家族とも回復状況等情報交換しながら、速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制加算を取っていないので、積極的にはしていないが、主治医が終末期等の対応をされる意向があれば、利用者・家族・医師と十分に相談しながら苑が対応する支援を行なっていく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成している。また、年1回全員が消防署で行なわれる応急手当の講習会へ参加、或いは、苑内での講習会を実施する予定としている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練・避難経路の確認・消火器の使い方などの訓練を定期的に行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会話・援助によって信頼関係が築かれるには継続努力が必要だと考え、個人の人格や気持ちを尊重した話しかけ、また話しに傾聴受容し信頼関係が保たれるように努力している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中からその人の思い・希望など話されることに耳を傾け出来る限りの援助を行なえるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の体調を観察しながら、その人の1日もしくは1週間の暮らし方を尊重しそれに合わせた対応を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣はなるべく本人に決めて頂くようにし、整容の乱れが無いように気配りを行なっている。また、職員もジャージ等のユニフォームは無く、節度をわきまえた自由な装いで暮らしの演出になっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみとなる様、会話をしながら食事の下ごしらえと一緒にしている。食前には、メニューの説明を行い会話を楽しみながら一緒に食事をしている。食べたい物の希望が引き出せるような声かけをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調(持病のある方など)や摂取量・水分量を把握し気配りしている。飲み込みが悪くなりつつある方には、その方に合わせた好みの食材や刻みで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけを行い、出来ないところは介助している。夜は、義歯を預かり浸け置き消毒を行い、朝返却するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの声かけが必要な利用者には、排泄チェック表を使用し排泄パターンに応じてトイレの声かけを行い、トイレでの排泄が出来るように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を使用し便意のない方便秘の方には、十分な水分補給・牛乳を多く摂って頂いたり、腹部マッサージをしたり、また散歩や運動の必要性を話したりしながら自然排便を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に添った好みの時間に入浴して頂けるようにしている。前日入浴していない方は、特に声かけを行っている。入浴を拒まれる方には、気分を変えるような声かけを考え入浴していただくようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や表情その方の生活ペースで午睡したり心地よく眠りにつけるように、日中の活動を促し生活リズムを整えるように配慮している。眠剤を飲まれている方は、睡眠状態を把握する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬剤早見シートを作成し、全職員が薬の内容を把握し、服薬時は誤薬の無い様に職員二人で確認し服用してもらっている。状態変化時は詳細な記録をとり、看護職員が中心となり主治医と連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮してもらえるよう出来るような仕事(洗濯物干し・たたみ、清掃、お膳・テーブル拭き他)を頼み感謝の言葉を伝えている。行事に参加し本人の楽しみごととなっているかを把握し支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせて教会、神社、買い物、公園等歩行困難なケースでも車や車椅子等を利用して戸外へ出ることを積極的に行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族又は、本人よりお金を預かり事業所で管理している。少数の方ではあるが、外出時の買い物、飲食等のお金などは自分で払っていただけるように、お金を手渡すなどの工夫をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの電話には、会話が他の利用者に聞こえないように、又話しやすい雰囲気作りに工夫している。手紙が届いたときには職員が声がけを行なうなど支援をしている(手紙をかわりに読むなど)。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分全体が落ち着いた色合いで、飾りつけは生活感や季節感が感じられるよう工夫されている。所々にソファを配置し、穏やかに日常生活を送って頂けるようにしている。利用者と共にフロアの飾り付けや家具の配置等を考えようと努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールにソファを置き、少し離れた所で一人になれる居心地の良い空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具、写真や思い出の品々が持ち込まれ、それぞれの利用者の居心地の良さを配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとって「不安・混乱」又は、「出来る力」を追求し状況に合わせて環境整備に努めている。状態が変わった時は、都度職員で話し合い、本人の不安・混乱材料を取り除き支援につなげている。		